

平成 18 年度経営構造対策事業計画評価表（第 4 年度目）

都道府県名		石 川 県		施設整備	事業内容	実施 (予定) 年度	受益 戸数	受益 面積
市町村名		白 山 市 (旧鶴来町) (旧河内村)			高生産性農業 大豆コンバイン 用機械施設 3台	H15~ H16	25	35.0ha
					高生産性農業 大豆乗用管理機 用機械施設 2台	H16	25	37.5ha
					高生産性農業 格納庫 用機械施設 1棟 97.08 m ²	H16	25	75.0ha
地 区 名		鶴来郷地区			高生産性農業 大豆施肥同時播 用機械施設 種機 3台	H16	25	35.0ha
認定 年度	H15	目標 年度	H19		経営構造整備 付帯事業 一式	H17	439	790.0ha

1 全国共通目標

事 項	計画時	目 標	目標達成プログラム (上段：計画、中段：実績、下段：達成率)					達成 状況 (評価)
			1年度目	2年度目	3年度目	4年度目	5年度目	
認定農業者 の育成(人)	18	20	18	20	20	20	20	
			21	23	22	25		
			皆増	250.0%	200.0%	350.0%		
担い手への 農地の利用 集積(ha) 上段()は 集積率で%	(51.9%) 410.0	(64.6%) 510.0	(54.4%)	(58.2%)	(60.1%)	(62.0%)	(64.6%)	
			430.0	460.0	475.0	490.0	510.0	
			(55.5%)	(58.7%)	(63.5%)	(52.9%)	()	
			438.7	464.2	501.7	518.2		
			143.5%	108.4%	141.1%	135.3%		
遊休農地の 解消(ha)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	
			0.0	0.0	0.0	0.0		
			100.0%	10.0%	100.0%	100.0%		

2 地区選択目標

(1) 一般選択目標

事 項	計画時	目 標	目標達成プログラム (上段：計画、中段：実績、下段：達成率)					達成 状況 (評価)
			1年度目	2年度目	3年度目	4年度目	5年度目	
年間労働時間の短縮 (大豆) (単位：hr/10a)	17	13	16.0	13.0	13.0	13.0	13.0	
			15.3	12.8	12.6	12.6		
			170.0%	105.0%	110.0%	110.0%		

(2) 水田農業構造改革目標

ア 作付面積

作物名	計画時	目 標	目標達成プログラム (上段：計画、中段：実績、下段：達成率)					達成 状況 (評価)
			1年度目	2年度目	3年度目	4年度目	5年度目	
大 豆 (ha)	60.7	75.0	68.0	75.0	75.0	75.0	75.0	
			71.4	53.3	48.5	74.6		
			146.5%	51.7%	85.3%	97.2%		

イ 販売計画

作物名	計画時	目 標	目標達成プログラム (上段：計画、中段：実績、下段：達成率)					達成 状況 (評価)
			1年度目	2年度目	3年度目	4年度目	5年度目	
大 豆 (t)	128.0	175.0	135.0	148.0	160.0	170.0	175.0	×
			102.7	73.8	90.9	106.4		
			361.4%	271.0%	115.9%	52.7%		

3 白山市の所見及び改善措置等

(1) 全国共通目標

認定農業者の育成

目標は達成しているが、今後はさらに品目横断的経営安定対策の加入対象者となりうる認定農業者、及び集落営農組織の育成を図る。

担い手への農地の利用集積

目標は達成しているが、今後はさらに農地保有合理化事業の活用により、担い手への農地の集積を図る。

遊休農地の解消

目標は達成しているが、今後も遊休農地が発生しないように取り組んでいく。

(2) 地区選択目標

年間労働時間の短縮

目標は達成しているが、今後はさらに高生産性農業機械による機械化一貫作業体系を確立し、これまで以上に労働時間の短縮を図り、収益性のある大豆生産に取り組む。

作付面積（大豆）

平成 18 年度大豆作付面積は、産地作り交付金の 10a 当たりの金額を上げたところ、74.6ha と大幅に面積拡大は出来たものの目標面積にはとどかなかった。平成 19 年度産大豆作付面積の拡大方法としては、さらに、麦後大豆作の拡大と認定農業者・集落営農組織に推進し、面積拡大を図る。

販売計画（大豆）

作付面積は拡大したものの、販売実績は未達であった。今後は、収量の安定確保のため、初期成育の促進、大豆畝立同時播種機による播種面積の拡大、生育状況に応じた栽培管理の研修等を開催し、生産性向上と品質の安定を図る。また、実証圃を設置し大粒比率の向上を図る。

販売実績が未達となった理由は、収穫前に長雨が続き立毛時に莢に雑菌が入ったため、豆が腐りカビが多発したことによる。

（降水量データ：9月26日～10月8日、総降水量 116.5mm）

また、9月17日～19日にかけての強風、10月6日～9日にかけての強風のため、倒伏しコンバインにかからない部分もあり収量減となった。

4 県・経営構造対策推進委員会の所見

販売実績が未達となった理由は、収穫前に長雨（降水量データ：9月26日～10月8日、総降水量は 116.5mm（昨年度の約 1.8 倍））のため、莢に雑菌が入り豆にカビが発生したことによる。さらに、9月17日～19日にかけての強風、10月6日～9日にかけての強風のため、倒伏しコンバインにかからない部分もあり収量減となった。これらはすべて気象的な要因によるもので、事業主体の責によらないと思われる。